



清新二中だより

教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人 (敬愛)
- 2 進んで学び、深く考える人 (知性)
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人 (健康)
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人 (責任)
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人 (礼節)

読書 一会いたかった本

校長 白石 亨

カサリ、と乾いた音が小さく耳につく。

教室からは本の頁をめくる静かな音だけが響いてくる。どの生徒も一文字一文字を丹念に目で追って読み込んでいく。・本校の朝は朝読書から始まる。大勢の生徒がいるにもかかわらず、静寂な空気の中に生徒も本も包まれる。朝の短い時間だが、生徒一人ひとりが思い思いの本を読んでいる。

熱心に本を読む生徒の顔を見ていて思い出した。

誰にでも小さかった頃、熱中して読んだお気に入りの本が一冊はあったのではないだろうか。

自分ごとで恐縮だが、四年前、地元の図書館に行った際、偶然にも自分の思い出の本を発見することができた。それは「ちからたろう (力太郎)」という絵本。小学生のとき、学校図書室にあったこの本が好きで好きでたまらなかった。よくも飽きずに何度も借りて読んだ記憶がある。話の運びは至って明快。民話がベースだった。お風呂嫌いのお爺さんが体に垢を溜めてしまい、その垢から人形をこしらえたところ、なぜだか命が吹き込まれ人間の男の子となる。力太郎と命名される。この力太郎が京の都に出没する魔物を成敗する話である。主人公が垢からできる破天荒な設定と、絵手紙風の質朴とした絵が魅力的で子ども心にワクワクした。

そして成人し、教員になった頃であろうか、機会があれば読み直してみたいと思ったのだが、すでに随分と前に絶版になっていた。目にすることができなかつたのだ。したがって、ぶらりと立ち寄った図書館で偶然にもこの本を見つけたときの驚きは大きかった。「おおっ・お前はこんなところにいたのか。元気にしていたか」とまさに40年ぶりに小学校の級友と再会したような嬉しさがあつた。大のおとながこの絵本を3週間も借りてしまった。

幼年期や少年少女期に読んだ本。

その本から受ける影響力は計り知れないものがあるように思う。

本校でも本から多大な影響を受けている生徒がいることであろう。先日も昼休み、図書室を覗いていると貸出当番の図書委員の女子2名が黙々と本を読んでいた。本を抱えた生徒が前にくると、ニッコリと微笑んで貸出業務を行う。そして貸出しが終わると、何事もなかったかの如く、スーっとすぐさま自分の本の世界に戻っていく。その切り換えの早さには驚いた。その所作を見ていて、ああ・とても本が好きなんだなあ・・・と感心させられた。学校ではどちらかと言うと文学少年・文学少女は目立たない。スポーツが得意だったり、ユーモアがあつたり、多弁だったりする生徒が目立つ傾向にある。だが、図書室を覗いていると確実に本が好きでいる・・・静かな気持ちで本を愛する生徒がいる。このことがとても嬉しく感じられた。

読書の秋。10月から全国的に読書週間が始まる。

この期間を利用してたくさんの本に親しみ、ぜひ自分の好きな本を見つけてもらいたい。好きな本、お気に入りの本をもつことは、自分を支えてくれる友達をもつことと同じぐらい大切なことだと思える。

会いたかった本。勇気を与えてくれた本。そう、良書は生涯の親友なのだ。



3週間借りた力太郎